

平成19年1月1日

(第63号)

鵜 戸



謹 賀 新 年

鵜戸神宮ホームページ <http://www.btvn.ne.jp/~udojingu/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

新春を寿ぎて



宮司 杉田秀清

新年明けまして

おめでとうございます。

皆様には今年もご家族お揃いでさわやかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。お正月は祭典も多く、歳日祭をはじめとして初日供祭、元始祭、縁日祭と祭典が次々に斎行されます。それに新春迎えて、皆様の諸祈願が行われ、皇室の弥栄や、この新玉の年が輝かしい年であることを願い、喜び寿ぐ神事で社頭は殷賑を極めていきます。

ここに謹んで皇室の弥栄

ささしのぼる朝日のごとくさわやかに もたまほしきは心なりけり (明治天皇御製)

所皇霊殿神殿に謁するの儀「へお宮参り」が執り行われました。ともに誠におめでたくお健やかなご成長をお祈り申し上げ、謹みてお慶び申し上げます。

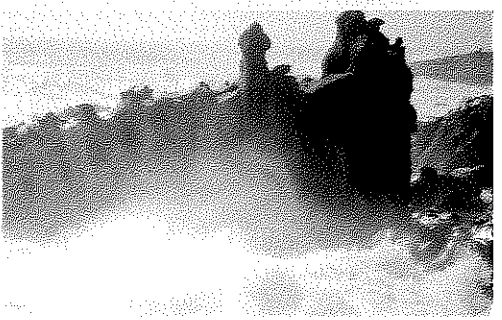
さて、鵜戸神宮の大神の鎮まります洞窟は、古くより神々をお祀りする神聖な霊窟として崇めてまいりました。ここを覆う磐座は千二百万年前に出来た巖といわれ、その後隆起して出来たといわれています。太古より荒波の打ち寄せる処にぽっかり開いた三百坪の霊窟は崇高なる信仰をあつめ、鵜草草尊不合尊のご誕生の聖地として大神を奉祀してまいりました。その巖は、速日嶺に向かって三十三度の稜線をもって一直線上り、百六十八m頂上には二つの円形の盛り上がりがあります。ここが古事記に

記された「日向吾平山上陵」(むかしのあひらのやまのうへのみさき)といわれています。現在宮内庁管轄の「鵜戸御陵墓参考地」となっています。今も、森林が覆い尽くし、千古斧を入れない鬱蒼とした杜で、人の立入らぬ聖地であります。社前の奇巖は海中に聳え波濤が打ち寄せて泡沫をあげ、山は常緑の森林が繁っています。

鵜戸はこのような海も巖も霊窟も杜も山も、自然を出来るだけ大切にしていまに至りました。杜は神々の住み給うところであります。日本人は自然と洞和しながら、又ある時は畏敬もして生きてまいりました。現在地球の温暖化とか、自然破壊が進んでいると云われていますが、私達は自然に対してやさしく謙虚に

なつて、川も森も海も山も自然を守っていくことが大切ではないかと思えます。今も太古と同じように、新しい日の出が鵜戸の風光明媚な自然を輝き照らしています。どうぞお詣り下さい。

氏子崇敬者の皆様、ご加護を受けられ、益々ご健勝にてこの新年をお過ごし下さいますようご祈念申し上げます。



抜穂祭 斎行

七月十八日、午前十時三十分より御神田において古式ゆかしい伝統行事「抜穂祭」が、役員始め崇敬者多数の参列を賜り斎行された。

J Aはまゆう女性職員七名が刈女で奉仕、稲の実りに感謝する祝詞奏上の後、抜穂の儀が執り行われ、緊張した面持ちで稲を刈り取り、祭員により御神前に供えられた。



祭典終了後には、地元住民や小学校全校児童も参加。児童は鎌の使い方を教わりながら慎重に稲を刈り取っていた。



新嘗祭 斎行

十一月二十三日、宮中をはじめ全国の神社で新嘗祭が斎行された。

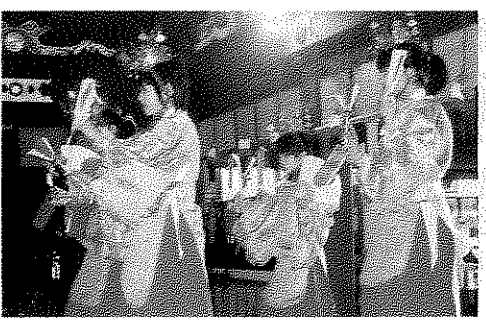
宮中では新穀を神々にお供えになり、天皇陛下御親らもお召し上がりになる重要な神事である。

当宮でも午前十時三十分より宮司以下祭員によって厳肅に斎行され、責任役員・氏子崇敬者総代をはじめ多



数の参列を賜った。神前には今年収穫された穀物を大神様に捧げると共に御恵みに感謝すべく、日南・串間市・南那珂郡内の各地区より新穀米や御神酒・御菓子等多数献上された。

又、「子供神楽」が、地元鵜戸小学校児童により楽しく優雅に奏舞された。



明治祭・秋の縁日大祭齋行

明治天皇の御誕生の日をお祝いする明治祭と、昭和二十九年以後途絶えたが平成十一年に復活齋行され、今年で早くも七年目となる秋の縁日大祭が、厳肅に賑やかに執り行われた。

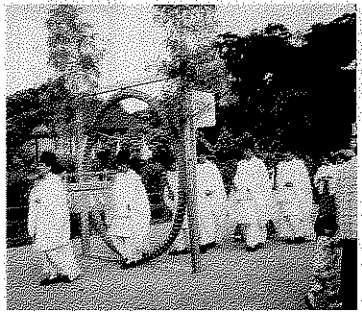
祭典終了後、奉祝行事として、この地区で伝承されてきた「鵜戸さん獅子舞」、巫女による「豊采の舞」、神職による舞楽「納曾利」が奏舞された。



大祓式

「水無月の 夏越しの祓いする人は 千歳の命のぶというなり」

神歌を唱えながら、日常生活において半年間知らず知らずのうちに積もった罪・穢れを祓い去り、心身を清める大祓式が、六月三十日午後四時より齋行された。



親王殿下御誕生 奉告祭齋行

九月六日午前八時二十七分、秋篠宮妃殿下には親王殿下を御出産になられた。男子皇族としては、秋篠宮殿下以来四十一年ぶりの御誕生となった。

九月十一日、午前十時より奉告祭を齋行。親王殿下のお誕生をお祝いすると共に、今後の健やかな御成長と皇室の御繁栄を祈念した。

翌十二日に愛育病院にて「命名の儀」が執り行なわれ、「悠仁」（ひさひと）さまと御命名、お印は常緑針葉高木の「高野槇」（こうやまき）とお定めになられた。



鈴木義弘氏「椰子の実」奉唱

声楽家の鈴木義弘氏が、宮崎市での演奏会出演の折に宮に参拝された。

無理を承知でうたの披露をお願いしたところ、快諾され、御本殿にて国民歌謡「椰子の実」を奉唱頂いた。パスの深みのある声が洞内の自然音響の相乗効果により広がり、参拝者も足を止め、本殿周りは人だかりとなり皆静かに歌声を聞いていた。

又、社務所玄関では、眼下に広がる風景に感動され「海ゆかば」を熱唱された。



七五三詣

例年十一月に入ると、境内では晴れ着姿の子供たちが参拝する微笑ましい光景が見られる。今年も又、岸壁より太平洋を見渡す絶景に一層の彩りが加えられた。

以前は着物・袴着が主流だったが最近では洋風の着衣でのお参りも増えている。

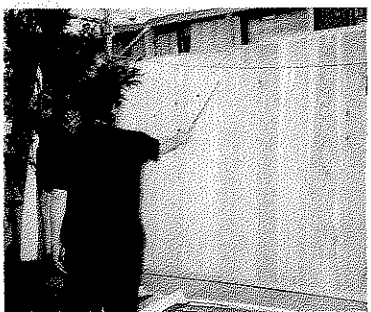


インドネシア・バリ島在住の画家・井山忠行氏が、平成十三年に杉戸絵を奉納されました。鵜戸の神域に感動し、境内にアトリエを構え、バリ島と鵜戸とを往復する中で、完成に至るまでの間に宮司宛に送られた手紙を、井山氏の許可を得て今号より数号にわたって紹介致します。

第一信

杉田秀清様

バリ島のアトリエに帰ってから一ヶ月が過ぎました。雨季のバリは時折激しいスコールに見舞われますが、強い日光が激しく燃え上がるような樹木草花を照らし、画家の目には特別なものがあります。今は世界に轟くバリ島観光もオフシーズンで、その上国内の政治経済の混乱、良いお得



意さんであるオーストラリアとの東ティモール問題をめぐっての関係悪化、日本の不景気などで低調で静かです。

この度の日本での二ヶ月の滞在は懐かしくエキサイティングな日々でした。特に久しぶりで訪れた鵜戸神宮で中学・高校の同級生であるあなたが第十代の宮司を勤めているとは・・・

鵜戸さんは僕が十九歳の折、友人のイタリア人画家と同道して以来実に四十三年振りでした。日本の古代から続く美しい海の風景、赤い鳥居、今はその当時とはすっかり変わっているは

ずですが、僕にはその当時と何も変わっていないような感じがしました。イタリア人画家が当時の日向日々新聞に鵜戸神宮印象記を書いていましたので、それを読めばもう少し記憶が鮮明になるのかもしれないが、（余談ですが、彼マリオはその翌年、縁結びの神の御利益で宮崎の女性と結婚しました。）

このたびの鵜戸神宮での滞在は、あなたの厚意に甘えっぱなしで恐縮しましたが、僕の現在の画業にとつては従前のそれから大きく前進するきっかけとなると思っています。この十年バリ島を中心にヨーロッパとオーストラリアで製作してきたのですが、このように外国で暮らすうちに僕の関心はますます日本という

国、その文化に集中して行くようになりました。当然の帰結ですが、その生まれ育った文化は一人の芸術

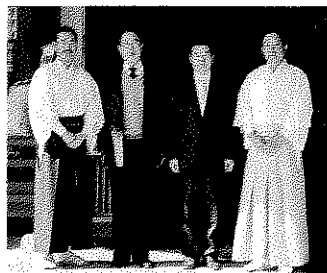
家にとってその背骨であるし、地についた足です。現在の日本はとりもなおさず重要ですが、又、古い日本もそれに劣らず重要です。「鵜戸神宮」は一つのきっかけを与えてくれました。日本の文化の流れのうちで、宗教は今、大いに語らなければならぬのではないのでしょうか。

広大な、又深遠な主題を展開している記紀神話、その創生の物語と日本の風景（鵜戸の風景）を組み合わせた奉納絵のアイデアはこのような考えから来ています。この作品を僕は今、多分僕と同じようなイメージを抱いているであろうと思われあなたと一緒に仕上げたいと考えています。この前の宮崎滞在中の多くの旧友たちが僕の描いた下絵を見て、大いに共感してくれたのをうれしく思いました。

二〇〇〇年の新年に気分

社務日誌抄

- 1月1日 歳日祭
- 1月2日 初日供祭
- 1月3日 元始祭
- 1月7日 昭和天皇御陵遙拜式
- 1月18日 兒原稻荷神社禰宜 甲斐靖氏他2名参拜
- 1月26日 鹿兒島県護国神社 野村浩平氏他1名参拜
- 2月9日 播種祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月17日 祈年祭
- 2月24日 長崎県日野九十丸神社宮司
- 2月24日 高倉國照氏参拜
- 2月24日 長崎県龜岡神社 彌宜 下條紀元氏他3名参拜
- 2月24日 鹿兒島県霧島神社 宮敬神婦人会 長高橋美津子氏他8名参拜
- 3月3日 御神田清祓祭
- 3月7日 宮内庁京都事務所所長 下均氏他1名参拜
- 3月9日 久能山東照宮宮司 落合偉洲氏他17名参拜
- 3月14日 御田植祭
- 3月14日 宮内庁京都事務所 所林園課樹林係 係長 小林 保氏他1名参拜
- 3月25日 春の縁日大祭
- 3月26日 第20回シャンシヤン馬道中唄全国大会決勝第20回シャンシヤン馬道中新婚2組参拜
- 3月28日 責任役員会
- 3月29日 北海道乙部八幡神社宮司 松崎博彦氏他19名参拜
- 3月26日 全国大会決勝第20回シャンシヤン馬道中新婚2組参拜
- 4月23日 真言宗大日寺住職 中村慈恵氏他6名参拜
- 5月1日 責任役員会
- 5月5日 節句祭奉祝行事
- 5月15日 氏子・崇敬者総代会
- 5月16日 鵜戸神社宮敬神婦人会総会
- 5月26日 別当宮司先賢慰霊祭
- 6月30日 大祓式
- 7月3日 京都府平安神宮 宮司 九條道弘氏他39名参拜
- 7月4日 広島県報國神社 宮司 松原朝臣氏他51名参拜
- 7月16日 柳生新影流兵法 西田浩三氏他4名演舞奉納
- 7月18日 抜穂祭
- 8月30日 日吉神社宮司
- 9月7日 熊本県神社庁菊池支部支部長 宇野正輝氏他61名参拜
- 11月3日 明治祭並びに秋の縁日大祭
- 11月6日 宮内庁桃山陵墓監区事務所副所長 椋本武氏他3名参拜
- 11月18日 海上自衛隊掃海隊群指令 海将 補 加藤耕司氏他18名参拜
- 11月23日 新嘗祭
- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓式・除夜祭



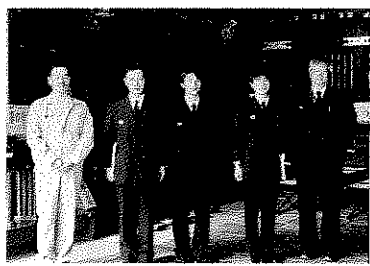
鹿兒島護国神社宮司 野村浩平氏他



霧島神社宮敬神婦人会会長 高橋美津子氏他



平安神宮宮司 九條道弘氏他



桃山陵墓監区事務所副所長 椋本武氏他

を新たにし、又手紙を書きます。僕はますます元気です。

一九九九年
十二月二十四日
パリ島にて 井山忠行

第二信

杉田秀清様

二四、JAN、二〇〇〇

Ba i i

日本から帰ってすぐに旅行したロンボク島で騒乱があり、観光客もほとんど全て旅行をキャンセルし、ロンボク島に住んでいる友人(日本人)もパリ島に逃げ、今日その無事を知らせるため訪ねてくれました。全てに安全である日本とはやはり多いに違う状況にあります。十九日から二十一日までシンガポールに旅行したのですが、飛行機でわずかに二時間余というのには、ここは又インドネシアと異なり、同じ熱帯にありながらまるで東京を歩いているような

錯覚に陥りました。

ロンボク島は新興の観光地として、その静かさと素朴を売り物に近年発展しているらしいものがあるのです。が・・・パリ島のあまりの隆盛を嫌う観光客に人気・・・このような国家的な事情で気の毒に壊滅状態にあるようです。

日本という国でこのような事が起これば、どのようなパニックになるのか想像できないのですが、つくづく「日本の平和」を思えば、一九四五年の敗戦後の日本の国家的成功を有り難いと思わざるを得ません。日本に反面の問題が山積しており、その成功と裏腹の事情があり、外から眺める日本とその内側は随分違っているのは、僕自身「日本という国」にアンビバレンツがある故に外国に住んでいるので充分承知はしているのですが。

インドネシアの外貨獲得



の御三家、石油、木材、観光のうち、観光のように危うい事業も他に無いような気がします。僕のバリ島滞在の十年間のうちでも湾岸戦争、コレラ事件(これは日本とバリとの間だけの事件でしたが)今回の政治混乱はインドネシア観光収入に多大な打撃を与えました。

ただ救いは、このような事情にも係わらずインドネシア人が天性の明るさとたくましさを持っていて、大して動じる気配が無いということとです。熱帯という風土が衣食住の貧困をさほど

いことです。僕のインドネシア人の友人が、日本とインドネシアを比較して口癖のように言うのが、インドネシア・リッチカントリー・プアピープル、日本・プアカントリー・リッチピープルという表現です。観光の話題が観光立島パリでは日常茶飯事です。このような話題の際、この前久しぶりだ帰った宮崎のことを・・・すっかり忘却の彼方にあつた「観光宮崎」・・・反射的に思うようになります。というのは宮崎でもやはり観光の話題が多かったからです。このことについては又書きます。いろいろと見聞したし、いろいろと考えました。観光文化人類学とでもいうものです。

ら今年までの五年間の代表的な作品五〇点〜一〇〇点くらいになる予定です。いよいよその実際的な準備に入りました。

井山忠行

お元気で過ごし下さい。遅ればせながら、新世紀を迎えたお祝いを申し上げます。イギリス人は今年二〇〇〇年を二一世紀の終わりの年として考え、フランス人は二一世紀の始めの年と思うのだそうです。僕は両世紀をまたぐ年だと考える事にしています。

今夜から来月二日まで杉谷昭人さんが宮崎から来るので、写真は彼にことづけます。彼には個展カタログのテキストを書いてもらうことにしています。日本、特に宮崎との関連について、書いてもらうことにしています。

境内の植物



オオタニワタリ

西日本の暖地の樹林に自生。樹上や岩上などに着生している大型のシダ。



当宮に毎月欠かさず参拝され、崇敬厚き南郷町在住の前田清・敦子ご夫妻が十月十一日、日頃よりの大神様の御神徳に感謝の意を込めて御神鏡を奉納された。同日大前にて奉納奉生告祭を齋行し、宮司より感謝状が授与された。

御神鏡奉納



鹿兒島県霧島市在住の清藤辰夫氏が、鶺戸の大神様の御恵に感謝され、燈籠を奉納された。十一月十七日にご家族三名参列のもと、奉納奉生告祭が齋行され、感謝状が手渡された。

燈籠奉納

厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年令と言われています。年の始めに御祈願を受けられまして、本年も無病息災にてお過ごし下さいませよう御案内申し上げます。

厄入・厄祓・厄明のご案内

平成19年厄祓一覧表(但し、数え年)

女性			厄入	男性		
	昭和52年 31歳				昭和43年 40歳	
昭和47年 36歳	昭和51年 32歳	平成2年 18歳	厄前厄	昭和23年 60歳	昭和42年 41歳	昭和59年 24歳
昭和46年 37歳	昭和50年 33歳	平成元年 19歳	本厄	昭和22年 61歳	昭和41年 42歳	昭和58年 25歳
昭和45年 38歳	昭和49年 34歳	昭和63年 20歳	後厄	昭和21年 62歳	昭和40年 43歳	昭和57年 26歳
	昭和48年 35歳		厄明		昭和39年 44歳	

一月一日は例祭です。午前十時三十分より齋行され、毎年多数の参列を賜ります。今年は舞楽「納曾利」が奉納されます。是非、ご参拝下さい。



最終学歴
日南農林高等学校
巫女 川添真実
生年月日
昭和六十二年八月四日



最終学歴
日南学園高等学校
巫女 井上さゆり
生年月日
昭和六十三年三月二十九日

新職員紹介